

2 多様な主体の参画のための体制整備の進展

④都市住民・企業等との協働のための仕組みづくりの例

京都：大学などの研究機関との連携による里山整備

立命館大学では、大学の社会貢献活動の拠点として、またボランティア活動を通して学生の「学びと成長」を支援するため立命館大学ボランティアセンターを設置している。

当センターではボランティア活動を教育の一環として位置づけ、単位認定を行う教育プログラムを実施している。しかし、学生は単にボランティア活動に参加するだけで単位取得できるわけではなく、事前・事後の学習により必要な知識や問題意識を形成するとともに専門知識の応用的な理解を深めることが求められる。

当センターでは、教養科目として「地域活動参加入門」を実施したり、「ボランティアコーディネーター要請プログラム」を実施したりしているが、中核的な取り組みは「地域活性化ボランティアプログラム」である。このプログラムでは、京都府内や滋賀県内の行政、公的機関、NPO、地域組織などと協定（覚書）を締結して行われ、プログラムの内容はそれぞれの地域課題に即したものが設定される。また、学生は教員の指導のもと事前・事後学習を行ったのち、成果を地域と大学両者で確認し、次年度の実施に向けて、協定の再締結と新たなボランティア活動の内容が設定されている。このように、イベント的なボランティア活動と異なり、地域との協定に基づく継続的な取り組みであること、成果を地域と共有していることなどが注目される。

宮津地区、綾部地区でも立命館大学ボランティアセンターと協定が締結されており、宮津地区のササ葺き民家再生活動、綾部地区の竹林整備等の里山保全活動もその一環である。

地域ボランティアプログラムの流れ

